

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)情報を関連付けながら、自分の考えをまとめていく力 (2)試行錯誤しながら主体的に学習に取り組むことができる自己調整力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)ー1 ICTの活用をねらうための教材研究、提案授業等の実施と日々の授業改善(年間・適宜) (1)ー2 学年の発達段階に応じ、小集団の意見交換を通して考えを深める授業の実施(年間・毎回の授業) (2)ー1 学校課題研修のねらいに沿った個別最適な学習の推進と充実(年間・毎回の授業) (2)ー2 自己をメタ認知できるよう、授業後や単元終了後等における振り返りの実施 (年間・単元毎・毎回の授業)	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修会
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語では、文章を読んで内容を理解する力や、自分の考えと結び付けてまとめる力が高い結果となっている。特に、「読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く」問題の正答率の高さは本校の強みと言える。算数では、計算技能だけでなく、割合、分数、小数などの理解も高い結果となった。特に「二次元表から条件に合う人数を読み取る」問題の正答率の高さは本校の強みと言える。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では「読むこと、話すこと、聞くこと、書くこと」の各領域で高い学力を有していることがわかり、算数では、数と計算、図形を中心に高い学力が見られることがわかった。全体的に「思考力・表現力を活用する問題」が強く、確かな学力が定着している。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	さいたま市学習状況調査(5月) <小1～中3> (11～12月)	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	校内研修等を通して、教職員の授業力向上、児童の学力向上、個別最適な学習の実践に向け学校全体でICT推進を図っている。また、道徳、学級活動、体育科の授業を中心に主体的・協働的で深い学びについても実践を重ねている。振り返りの実施については、更なる取組の必要があると考えられるので、スクールダッシュボード等の各ツールを有効活用していきたい。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

教育研究所